

鉄道ピクトリアル

2006年6月号 Vol.56 No.6 通巻No.776

<特集> 複々線

■表紙 京阪神区間の複々線……………安田 孝哉

高槻—山崎 2005-6-25

■カラー

電車競演 (1~7ページ)

岩井雄二・杉崎健一・関根敏男・安田孝哉・三ッ谷政久
浜村正弘・焼田 健・戸塚光弘・岸 義則・和田康之

JR東日本E955形新幹線高速試験電車……………8

JR東日本E721系500番代/JR東日本E331系/西日本鉄道
3000形/江ノ島電鉄500形/2006年3月18日 JRグループ
ダイヤ改正/ゆりかもめ有明—豊洲間延伸/けいはんな線開
業/和歌山電鐵開業/樽見鉄道 機関車牽引列車運転終了/
ミャンマーへ渡った日本の車両/小田急9000形が定期運用
を外れる/西鉄3000形・江ノ電500形が営業開始ほか

73~80

■グラフ

大都市圏の輸送を支える 複々線の構成と機能……………構成: 編集部… 25
複々線 思い出のシーン……………構成: 編集部… 30
京浜急行700形 デビューから引退までの足跡……………構成: 京急同趣会… 34
戦中製の名車 豊橋鉄道モ3100形 引退……………白井 良和… 38
京阪1900系 5編成が「勇退」……………和田 昌浩… 40
トピック・フォト (各地・関東・中部・関西)……………81
惜別 小田急電鉄9000系……………構成: 坂戸宏太… 88
D51その一族—1115分の1の素顔—(82)……………構成: 編集部… 90
京阪神地区 2006年冬の修学旅行臨……………松 橋 均… 92
姫路駅付近連続立体交差事業/旧名鉄モ514・モ593保存展示
……………別所泰宏ほか… 93
2006.3.18 JRグループダイヤ改正から……………構成: 編集部… 94

■本文

今月の話題: 複々線……………編 集 部… 9
運行管理の側面から複々線の機能を考察する……………富井 規雄… 10
民鉄の複々線区間……………監修: 和久田康雄… 22
都市鉄道の景観—複々線が形づくる風景……………西野 保行… 41
東京圏 複々線区間の配線と運転の興味……………祖田 圭介… 46

*

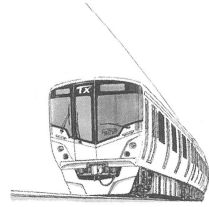
鉄道の話……………編 集 部… 24
ロンドン地下鉄の魅力—趣味的な視点から—……………金口 恭久… 54
鉄道エッセイ さようなら交通博物館
戦後売店で買った汽車の本の話……………根本 幸男… 62
続 ミャンマーへ渡った日本の車両……………斎藤 幹雄… 66
書評(512)『鉄道の文学紀行 茂吉の夜汽車, 中也の停車場』
……………和久田康雄… 72
京浜急行700形の足跡〔後編〕……………佐藤 良介… 97
JR東日本E721系500番代……………菊地 隆寛…102
西日本鉄道3000形……………井手 亮…109
JR東日本 昇降機搬入用私有コンテナの開発

……………木村順一・仲田陽一・田端節義・中村武嗣…113
3月のメモ帳……………119
読者短信・情報ファイル……………120
後部車から……………124

ISSN0040-4047

Tetsudō pikutoriaru

今月の話題



カット: 山本茂樹

複々線

「線路設備において、複数の複線線路が平行する列車運転線区。その運転形態によって、方向別複々線と線路別複々線がある」(鉄道用語技術辞典: 1997年, (財)鉄道総合技術研究所) 複々線の定義は何か、わかりきっていることとも思えるが、敢えてまずその解説を引用させていただいた。複々線は輸送力増強を進めるうえで究極の線路設備であり、今日では全国で数多くの事例に接することができる。形態として方向別と線路別に分類されるが、その2つを主体にさまざまな事由により成立した多彩な構成が複々線には存在する。たとえば線路別ではいわゆる列車線と電車線、列車・電車の旅客線と貨物線の複々線、異なる路線が並行する複々線などがある。また、方向別では急行線と緩行線の複々線が代表例として挙げられる。

このように多数の形態が見られる複々線は、趣味的には線路配線の興味が強いが、実務的には運転機能の面で多大な効果と可能性を有している。1960年代以降、特に東京圏を中心に通勤輸送の混雑緩和を目的にJR線、民鉄線で相次いで複々線区間が整備されてきているが、近年では運転保安や運行管理システムの発展とともに、単に輸送力増強のみならず、総合的な路線ネットワークの充実、乗換・接続をはじめとした現代的旅客ニーズに合致した輸送サービスのさらなる向上、異常時における運転整理の円滑化などの面で、複々線設備が最大限の効果を発揮できるように研究・開発が進められている。その意味で、本来の複々線のあり方が近年大きく進化つつある状況であり、鉄道事業者各社の運転スタイルを視点とした複々線をめぐる新たな動向も、今後は注目していきたいものである。

TETSUDŌTOSHO KANKŌKAI
Oak Ochanomizu Bldg., Kanda Ogawamachi 3-8 Chiyodaku, Tokyo/Japan